1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 28 年度

事業所番号	2794900023		
法人名	社会福祉法人 成和会		
事業所名	グループホーム菊水苑喜志の郷		
所在地	大阪府富田林市桜井町2丁目1835番地		
自己評価作成日	平成 29年 3月 1日	評価結果市町村受理日	平成 29年 4月 28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.nhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&ligvsvocCd=2794900023_004PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 29年 3月 25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・ご利用者が安心して生活して頂けるよう状態の把握に努めています。ご利用者の残存機能を知ることでご利用者の楽しみや役割を見出し、能力の維持に努めています。</p> <p>・1か月に1回、決まったテーマを職員2名が順番に担当を持ち内部研修を行っています。自分たちで学習し発表することで知識の向上に繋がっています。7月には全フロア合同で夏まつりを行い、ご利用者様、ご家族様にも大変好評頂き、毎年やってほしいとのお声も頂き、毎年の恒例行事になりつつあります。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員は「地域に根ざしたホームづくり」「喜びの絶えないホームづくり」を理念に、具現化に向けて取り組んでいます。昨年は職員の異動等もあり、積極的な地域活動は困難でしたが、地域への還元を考えながら、自治会の総会、だんじり祭りでお茶を提供するなどの取り組みを行いました。職員は、利用者や家族の声を常に真摯に受け止めてケアに活かしています。利用者が安心して楽しく暮らせるように、生活歴を情報として得て、カンファレンスで話し合い、個別ケアの実践に向けて支援しています。利用者が重度化する中で、全体でのレクリエーションは困難となりましたが、健康面、安全面に配慮し、利用者のできる機能を維持できるよう努めています。安全、安楽なケアに向けて、介護技術の学習会なども職員が講師となり、実践をイメージした具体的な取り組みが行われています。これらの取り組みから、利用者との関係が構築され、会話や笑顔が増えてきました。また、ホームの環境もゆったりとしており、明るいホームで、2階のテラスには、菜園があります。季節の野菜や苺などの果物を栽培し、利用者と一緒に収穫するなど、楽しむ為の環境が整っています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>地域密着型サービスに意義を踏まえた事業理念作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。朝礼時に理念を唱和している。</p>	<p>開設して10年を迎えるホームは、「家庭により近い環境をめざします。自分らしさを大切にします。地域に根ざしたホームづくりに努めます」を理念として掲げています。また、職員は、「和顔愛語の精神で笑顔を絶やさない。今日一日の人生という自覚のもと喜びのタネをまき、生きがいあるホームづくりにつとめる」などの文言が含まれた法人の理念を毎朝唱和することで、気持ちを新たに、明るい気持ちで一日を過ごせるように努めています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。(初詣、地域での買い物や秋祭りの鑑賞、会館のイベント利用、散歩の際の挨拶飲食店での外食、学生交流等)</p>	<p>ホームが開設して10年が経過する中で、地域への還元を考えながら、交流を図るために努めています。少しでも利用者が地域と繋がりを持ち暮らせるように、また、地域の介護や認知症に関する相談窓口の拠点となるようにとの願いを持ち、自治会の総会に参加する機会を得ました。近隣の小学校、中学校とも交流を重ねる中で、世代間交流や地域との繋がりが広がっています。だんじり祭りでは、ホーム前が山車の中継点となるため、地域の人達の休憩所としてお茶を提供しています。長年、フラダンスや書道、大正琴などの定期的なボランティアの訪問があります。また、社協や法人とも相談しながら、地域のために「認知症カフェ」の実現に向けて少しずつ企画を進めています。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域との交流は十分果たせていない。地域への働きかけ及び協力体制の整備が課題である。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では利用状況やサービス実際、課題、評価への取り組み状況報告し、そこで得た意見等をサービスの向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議は、規程・規約を作成し、2カ月に1回定例で開催しています。会議の構成員は、利用者、家族、地域包括支援センター職員、地域の代表者、法人代表、施設職員です。会議では、利用者の状況や行事、外出などの報告を行っています。また、参加者より、様々な意見や運営への改善などが提案され、話し合いが行われています。管理者、職員は、出された意見や助言を真摯に受け止め、職員間で話し合いを重ね、運営に活かしています。会議で提案された、行事を事前に家族に伝えることや定期的な新聞の発行なども検討され、運営に反映しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>〇市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>主に事故報告書・入居情報の提供を行うことで連携を図っている。グループホーム事業所交流会に参加しており市の職員の方にも出席して頂いている。</p>	<p>日頃より市の担当者と連絡を取り、相談しやすい関係づくりができています。グループホーム事業所交流会には、市の担当者も出席しており、情報交換の場となっています。市の出張研修としてキャラバンメイトの養成もホーム1階の小規模多機能事業所のスペースを利用して行われました。介護相談員の受け入れも行っています。事故の発生時には、速やかに市への報告を行い、対応等についても相談をしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>内部研修で身体拘束は基本禁止の意識付けを行っている。エレベーター横にロック解除の暗証番号の貼り出しをしている。外に出たい職員は職員付添い外に出て頂き、付き添ってほしくない方は職員が後ろから様子を伺う等の対応をしている。</p>	<p>新人職員の入職時や職員対象に、身体拘束廃止や高齢者虐待防止の研修を行っています。運営規程にも「身体拘束の禁止」について明示し、利用者の自由を制限しないよう、言葉による拘束についても職員会議などで話し合い、意識を高めるように努めています。利用者の状況に応じて、生命を守るために、切迫性があり他の代替がない場合などには、ベッドを柵で囲う場合もありますが、職員は拘束であることを意識した上で、家族とも話し合い、文書で同意を得て、定期的に見直しを行っています。エレベーターは、電子ロックとなっています。暗証番号を貼紙し、利用者が確認できるようにしていますが、すぐに利用者が外すため、エレベーター内側の見えにくい場所への掲示となっています。利用者がエレベーターの方に行く様子に気付くと、声をかけ一緒に他の階へ移動する対応を行っています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	管理者や職員は高齢者虐待防止について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	管理者や職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度を学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。		
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者や家族等が意見・要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せるよう機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族面会時には、計画作成担当者や職員が必ず声かけを行い、気軽に話せる雰囲気作りに努めています。面会の少ない家族へも1カ月に1回は電話で連絡を取り、ホームでの様子を伝えています。「菊水苑喜志の郷新聞」も4カ月に1回を目標に定期発行を予定しています。新聞では利用者の日頃の様子や、職員の異動などホームの取り組みを伝えています。また毎月の領収書と合わせて、ホームの行事の案内も送付し、家族が気軽に参加できるよう周知しています。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>管理者や計画作成担当者が中心となり、職員の意見や思いを聞く機会を設けています。フロア会議では、自由に発言できるよう「他者の発言時には、声を遮らない」などのルールを決めて、職員一人ひとりの声を大切にしています。また、個別面談などを通して、できるだけストレスの少ない職場環境を目指しています。職員から出された意見や要望は、本部と相談しながら実現できるようにしています。職員の勤務体制や異動なども、職場の体制を配慮した上で可能な範囲で努力しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じてサービスの質を向上させていく取り組みをしている。富田林グループホーム交流会に参加している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人と家族等が今、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にするもの同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族を支援される一方の立場におかず、暮らしを共にするもの同士の関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。</p>	<p>家族の協力も得ながら、行きつけの美容院の利用や喫茶店など馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援しています。また、家族や友人、近所の人との面会もあり、居室やフロアでゆっくり過ごせるように関係継続に向けた支援をしています。最近の利用者の身体状況により困難となりましたが、以前は、墓参りや外泊などの支援もしていました。手紙やはがきなどの代読、電話などの対応もしています。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービスの利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過フォローし相談や支援に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は本人本位に検討している。	言語での意思疎通が困難となった利用者もありますが、職員は、日常生活の中から、小さな気付きを見逃すことなく、表情などから思いや意向を把握できるように努めています。一人ひとりの状態が異なる中で、家族の協力も得て、生活歴や習慣を把握したうえで、個別のケアに取り組んでいます。また得た情報は記録に残し、毎月カンファレンスを開催し、情報の共有に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人が寄りよく暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者が話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画は3か月～6か月を目途に見直しをしています。担当職員や計画作成担当者は、本人及び家族から具体的にどのようなことがしたいのか、意見や要望などを聞き、記録に残し、計画に反映しています。個別の計画は、実践に繋がるように日々職員が確認できるようにフロアに置いてあり、職員は同じ目標に向かって支援をしています。実施した内容は毎月、カンファレンスを行ない、丁寧に経過をまとめて整理しています。日々の記録はパソコンで整理されていますが、利用者の変化など、やや分かりにくいものとなっています。</p>	<p>利用者一人ひとりに応じたケアを、計画に沿って実践していますが、生活の中で表情や会話など、記録としてやや分かりにくいものとなっています。利用者の変化が分かるよう「見える化」に向けた記録の工夫をされてはいかがでしょうか。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子やケアの実践・結果・気づきや工夫を記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市民会館への舞踊鑑賞などのイベントへの参加や地域からの訪問散髪も導入している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人、家族の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療が受けられるように支援している。	協力医療機関の内科医の往診は毎週1回ありますが、利用者、家族の希望に応じて、馴染みの医療機関を継続して受けられるように支援しています。受診は家族の協力を得ていますが、必要に応じて、受診の付き添いや家族の同行もしています。ホームに看護師は常駐していませんが、同法人の小規模多機能事業所や特別養護老人ホームの医療職へ相談することができます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、必要に応じて小規模多機能所属の看護師や訪問看護師に伝え、相談し、個々の利用者が適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人、家族と話し合いを行い、事業所としてできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチーム支援に取り組んでいる。</p>	<p>現段階では、基本的な方針として、看取りの支援は行っていません。入居時には、できることの範囲を利用者、家族に説明しています。重度化した場合には、家族や主治医と相談し、状態に応じて医療機関や同法人の特別養護老人ホームへの入所を視野に入れた対応を行っています。職員は、利用者や家族のできるだけ長くホームで暮らしたいとの意向をうけ、車いす利用になっても食事や水分摂取など健康面での管理に力を注ぎ、ホームでの生活が継続できるよう支援しています。医療ニーズが高くなり、対応が困難となった場合には、家族の意向を丁寧に確認し、話し合いを重ねながら判断、対応しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、新人職員を中心とした消防署における救急講習の計画、実施を行っている。また会議にてシミュレーションで初期対応の判断で必要な事項を確認し、危機意識の向上に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の災害時に昼夜を問わず、利用者が避難できる方法を全職員が身につけると共に、地域との協力体制を築いている。	ホームでは、非常災害時対応マニュアルや119番通報要領等を整備しています。昨年、5月と10月に夜間を想定した自主避難訓練を実施し、連携する消防署への報告を行っています。また、年に1回消防署の立ち入り検査、年に2回消防設備の点検が実施されています。職員は、避難訓練や災害時・緊急時についての研修等を通じて、利用者一人ひとりの避難方法や、職員の役割等の確認・検討を行い、防災意識を高めています。ホーム1階には飲料水の備蓄をしており、食料品や日用品等の備蓄については近隣に位置する同法人特養に保管しています。	今後は、飲料水のみならず、食料品や日用品等の備蓄について検討し、ホーム独自で保管してはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が傷つく言葉かけや強い口調がないかスタッフ間で確認、注意し合っている。一人ひとり人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報の取り扱いに関しては契約時に書面を交わしている。	管理者は、「利用者一人ひとりの人格を尊重・利用者との信頼関係が途切れない言葉遣い・職員同士のフロアにおける会話の中にも細心の注意を図る」等、日々職員へ「尊重とプライバシー確保」の重要性について徹底するよう指導しています。利用者一人ひとりの個人情報ファイルは、鍵付きのキャビネットで保管しています。職員は、グループホームにおけるケアや接遇の研修、職員間で言葉遣いのチェックを実施する等、日常的に確認を行っています。職員の言葉かけや接し方は丁寧で優しく、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや希望を表したり、自己決定できるよう声かけしている。食事のメニューを伺ったり、その他、本人様からの希望を必ず聞くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の業務は決まっているが、利用者様の気分や体調に合わせて業務を変更できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問散髪がある。希望時はカラーも行っている。衣類の汚れはすぐに着替えるようにして整容に気をつけるようにして支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの嗜好品、食べやすい形態を把握し、選択メニューから選んで頂いている。又、時には職員と一緒に献立を考え準備や調理を行うことも取り入れている。	ホームでは、同法人特養から食事が届きます。昼食と夕食の副食は選択食で、利用者は好きな副食を選び食しています。職員は、利用者一人ひとりに合わせた食事形態で提供し、見守りや支援を行い、一緒に同じ食事を摂っています。また、利用者と職員の希望により、献立から準備、調理を行う日もあります。ホーム菜園で収穫した野菜や果物を使い手作りおやつとして提供する、テラスで花見をしながらお弁当を食する等、「食事」がより楽しみなものになるよう、工夫を行い支援に努めています。手作りおやつや、利用者一人ひとりの希望を聞き、回転寿司等へ外出に出かける機会を定期的に設けており、利用者と職員の楽しみごとにつながっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分チェック表を活用して把握に努めている。一人ひとりの食事量が適量であるかを見ている。食事時間がずれる方への柔軟な対応もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔の清潔が保てるように、毎食後、一人ひとりの口腔状態の確認や本人の力に応じた口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、必要物品の選定・見直し及び個々の能力に応じたトイレ誘導及び排泄介助を行っている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を尊重・確認し、排泄リズムに合わせた個別支援を行っています。また、必要物品の選定や見直しを行い、時間を見てトイレ誘導をする、声かけの工夫等を行った結果、おむつ使用が少なくなった事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴確保を基本とし、一人ひとりの状況、希望、タイミングに合わせて入浴を楽しめるよう支援している。又、ゆず湯、菖蒲湯で季節感を味わって頂く工夫をしている。皮膚疾患の利用者様は週5回、入浴希望が強い利用者については週3回にしたりし支援している。	ホームでは、週に2回の入浴ができる環境を整えています。それ以外では利用者の希望や必要があれば週3回～5回までは入浴できるように支援しています。利用者一人ひとりの希望や体調、タイミングに合わせ、好みのシャンプーやボディソープ等を使用し、入浴を支援しています。また、ゆず湯や菖蒲湯等の行事風呂を提供し、利用者が安心してより「入浴」を楽しむことができるよう支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や、その時々状態に応じて、休息できたり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的に薬剤師からの薬の説明があり、内容不明時や処方について相談できる体制になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族・本人からの生活歴を伺いスタッフ間で共有するようにしている。好きなものや楽しみを探して少しでも気分転換が出来るようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの状況や、その日の希望にそって、戸外に出かけられる支援に努めている。又、家族様の希望、協力により、外出、外泊も支援している。	以前は、近隣の公園へも頻繁に出かけていましたが、利用者の重度化に伴い、日常的な外出の機会が少なくなってきました。行事としては、花見や道の駅、回転寿司の夕食など、取り組んでいます。個別の外出として美容院や日常雑貨、衣類の購入に出かけることもあります。ホーム2階のバルコニーは広く、菜園もあり、外気浴ができるスペースとなっています。	ホーム内で重度化した利用者が多くなると、外出の機会が少なくなりがちですが、体調管理を行いながら、個別外出の機会をつくり、最低でも週1回を目標に外出に取り組まれてはいかがでしょうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や能力に応じて、お金を所持したり、使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族様や大切な人に自ら電話したり、手紙のやり取りができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共有空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>2階にはテラスと菜園を設置している。利用者はテラスで花火鑑賞したり散歩をしている。また、季節にあわせ菜園を利用している。居間や食堂、廊下は広くゆったり居心地よく過ごせる工夫をしている。空調にも配慮している。</p>	<p>3階建てのホームは、1階に小規模多機能の事業所が併設されており、2・3階がホームとなっています。食堂兼リビングは広く、ゆったりしており、窓からの採光で明るく、周辺の風景を眺めることができます。2階のフロアからは、広いテラスに出ることができます。テラスには、菜園があり外気浴やお茶を楽しむことができます。菜園では、季節に応じて苺などを植え、利用者と一緒に栽培もしています。キッチンスペースには、届いた食事を温め、簡単に洗い物をするなど、調理の過程を楽しむ環境が整っています。ゆったりした廊下やリビングには、利用者の行事の写真や作品を掲示しています。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>フロア・廊下にソファや椅子を設置し、一人になれる居住空間を大切にしている。気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人様や家族様と相談しながら使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内は、木目を基調に、高さが低く調整できるベッド、車いす対応可能なトイレ、洗面台が設置されており、クローゼットもあり、季節の衣類など整理できる空間が整っています。居室、床の一部が畳のスペースとなっており、ベッドの配置の工夫により、好みに応じた和・洋、自由な空間づくりをしています。また、各部屋の入り口には、写真を貼り、暖簾を吊るし自分の部屋だとわかるようにしています。居室内には、危険物以外、自由に持ち込むことができます。利用者は、馴染みのタンスや机、椅子など自宅で使い慣れたものを持参しています。また、テレビや写真、小物類、ぬいぐるみ、植物、ホームで作った作品などを飾っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		